

ManageEngine PAM360 スタートアップガイド

目次

1. 要件	1
2. システム要件	1
3. PAM360のコンポーネント	2
4. PAM360が使用するポート	2
5. PAM360のインストール	3
5.1 要件	3
5.2 WindowsにPAM360をインストールする手順	3
5.3 LinuxにPAM360をインストールする手順	8
6. サイレントインストール	12
6.1 WindowsサーバーにPAM360をサイレントインストールする手順	12
6.2 LinuxサーバーにPAM360をサイレントインストールする手順	13
7. PAM360の起動とシャットダウン	15
7.1 Windowsの場合	15
7.2 Linuxの場合	15
8. PAM360 Webクライアントの起動	16
8.1 ブラウザの自動起動	16
8.2 Webクライアントの手動起動	16
8.3 リモートホストでのWebクライアントの接続	17
9. PAM360のアンインストール	17
9.1 WindowsでPAM360をアンインストールする手順	17
9.2 LinuxでPAM360をアンインストールする手順	18
10. インストール後のベストプラクティス	18
10.1 管理者ログインパスワードの変更	18
10.2 PAM360暗号化鍵の管理	19
10.3 リモートホストでのWebクライアントの接続	20

1. 要件

標準のシステム要件(ハードウェアとソフトウェアの両方)とは別に、PAM360を適切にご利用いただくには以下の条件を満たしていただく必要があります。：

メモ：PAM360のアカウント検出とパスワードリセットのプロビジョニングを利用する場合も含まれます。

- ユーザーにさまざまな通知を送信するための外部メールサーバー（SMTPサーバー）
- サービス アカウント、または、PAM360 サーバーおよび管理対象のターゲット システムでドメイン管理者権限またはローカル管理者権限のいずれかを持つ gMSA
- Microsoft .NETフレームワーク
- Visual Studio 2015以上のバージョンでのVisual C++ Redistributable（PAM360のアカウント検出およびパスワードリセット機能用）

メモ：インストール有無を確認するためには、製品インストール完了後、ユーザープロファイルドロップダウンから、
[サポート] > [ソフトウェア要件] > [設定の確認] の順に移動します。

2. システム要件

PAM360に必要なハードウェアとソフトウェア構成については以下の通りです。：

ハードウェア	オペレーティングシステム	Webインターフェース
プロセッサ QuadCore またはそれ以上	Windows <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2022 • Windows Server 2019 • Windows Server 2016 	HTMLクライアントでは、次のブラウザ**のいずれかがシステムにインストールされている必要があります： Microsoft Edge(Windowsの場合)、Chrome、Firefox、およびSafari(Windows、LinuxおよびMacの場合) **PAM360は、1280x800以上の解像度に最適化されています。

ハードウェア	オペレーティングシステム	Webインターフェース
RAM 8 GB以上 ストレージ 100 GB以上	Linux <ul style="list-style-type: none"> • Ubuntu 18.04およびそれ以上 • CentOS 6およびそれ以上 • Red Hat Linux 9.0 • Red Hat Enterprise • Linux 9.x、8.x、7.xおよび6.x • AlmaLinux 9.xおよびそれ以上 	データベース 製品にバンドルされている PostgreSQL 10.18 MS SQL Server 2022 MS SQL Server 2019 MS SQL Server 2016 (SQL Serverは、Windows Server 2016およびそれ以上にインストールする必要があります。)
メモ： セッション記録の場合、ディスク容量の要件は使用レベルによって異なる場合があります。	メモ： 一般的に、PAM360 はあらゆる種類のLinuxで適切に動作し、上記のオペレーティングシステムのVM上でも実行できます。	

3. PAM360のコンポーネント

ご使用の環境でPAM360を効果的に実行するために、以下基本コンポーネントのセットが必要です。：

1. PAM360サーバー
2. PAM360 Agent(オプション)：
 - 他トランジェットマシンからPAM360サーバーの操作を実行する場合
 - PAM360サーバーに接続されていないリモートリソースとの接続を確立し、PAM360からそれらを管理する場合
 - ドメインコントローラー管理者の認証情報を使用せずドメインアカウントのリモートパスワードリセットを行う場合
3. PAM360リモート接続 (オプション)：
 - 複数のサードパーティ製リモートクライアントやウェブブラウザベースのクライアントをインストールすることなく、WindowsやSSHベースのターゲットリソースにパスワードレスログインで直接リモート接続を開始する場合

4. PostgreSQL 10.18データベース：

- PAM360にバンドルされ、別プロセスとして実行される
- 実行中ホストからの接続のみを受け入れる
- レプリケーション用に構成されたセカンダリサーバーからの接続を許可

4. PAM360が使用するポート

PAM360がリモートアクセスに使用するポートは以下の通りです。：

ポート名	ポート名	ポート名
PostgreSQL	3456	アウトバウンド
Webクライアント	8282 {Https access}	インバウンド
SSH	22	アウトバウンド
LDAP w/o SSL	389	アウトバウンド
LDAP w/ SSL	636	アウトバウンド
SMTP	25	アウトバウンド
MS SQL	1433	アウトバウンド
Oracle	1521	アウトバウンド
Sybase ASE	5000	アウトバウンド
パスワード検証	135, 139, 445	アウトバウンド
SSH CLI	6622	インバウンド
自動ログオンSpark View Gateway	8283 {Https access}	インバウンド
RDP	3389	アウトバウンド
REST API	8282	インバウンド
SNMP	162	アウトバウンド
Syslog	514	アウトバウンド

5.PAM360のインストール

PAM360は、WindowsまたはLinuxの両OSにインストールできます。

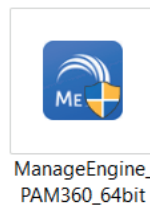
5.1 要件

インストール開始前に、以下を必ず実行してください：

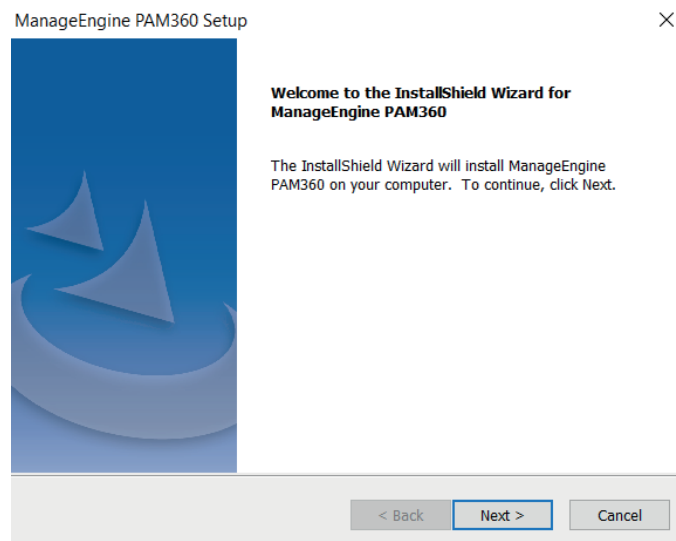
- PAM360の最新バージョンインストーラーをダウンロードする
- 環境がシステム要件に対応しているかを確認する

5.2 WindowsにPAM360をインストールする手順

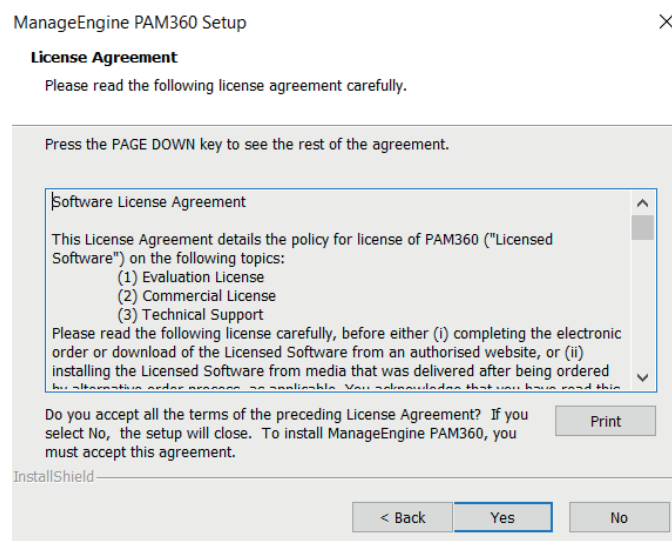
1. インストールを開始するには、ManageEngine_PAM360.exeアイコンをダブルクリックします。



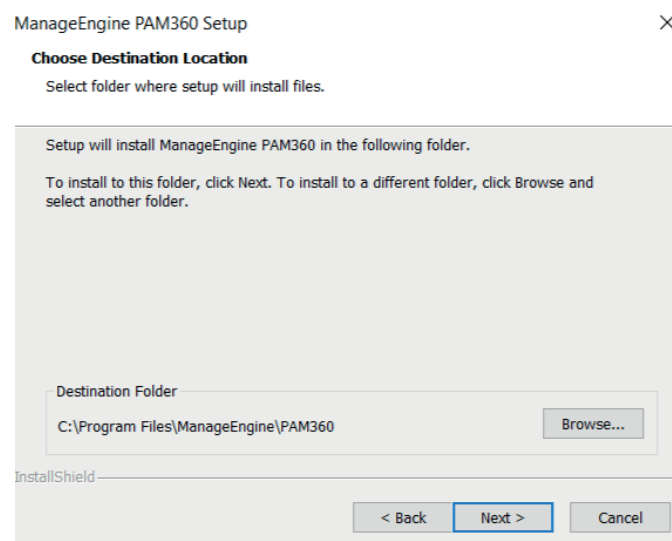
2. 画面にInstallShield Wizard for PAM360が表示されます。[次へ] をクリックしてインストールを続行します。



3. ソフトウェアライセンス契約が表示されます。（英語）
契約内容をよくお読みいただき、問題がない場合は [Yes] をクリックして同意し、インストールを続行します。[Back] をクリックして、前のウィザードに戻ることも可能です。また、[No] をクリックして、セットアップを終了します。今後の参照のため、ライセンス契約を印刷することもできます。（ [Print] ）



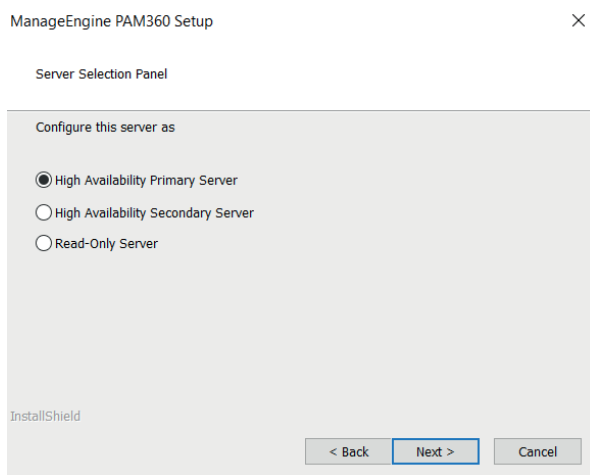
4. フォルダを選択し、PAM360をインストールします。デフォルトの場所 C:\ProgramFiles\Manage Engine\PAM360でインストールを続行するか、[Browse] をクリックして別の場所でPAM360をインストールすることができます。[Next] をクリックしてインストールを続けます。[Back] をクリックして、前のウィザードに戻ることも可能です。



5. サーバー選択パネルが表示されます。ここで、セットアップしているサーバーに関連するオプション、例えば、リードオンリーサーバーを選択します。
- i. **高可用性プライマリサーバー** - プライマリサーバーは、PAM360の動作とサービスを制御および管理する主要サーバーです。PAM360提供のすべての特徴と機能をすべてそのままにした状態で、常に完全機能します。
 - ii. **高可用性セカンダリサーバー** - PAM360を別のインスタンスでインストールする

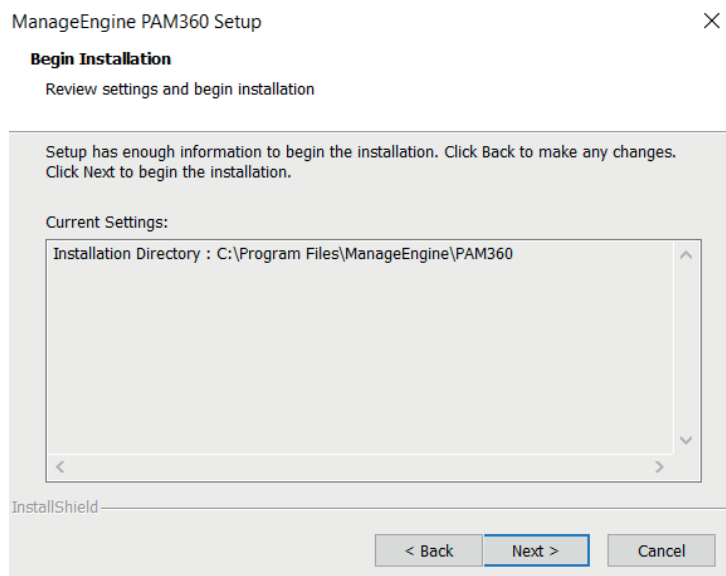
場合はこのオプションを選択します。セカンダリサーバーでは、プライマリサーバーがダウンした際および正常動作に戻るまで、ユーザーが「読取/書込み」権限でPAM360にアクセスすることができます。この中断期間にデータベースに加えられた変更は、接続が復元されると自動的にプライマリサーバーに同期されません。（ご使用には別途ライセンスが必要です。）

- iii. **リードオンリーサーバー** - PAM360をお使いのシステム環境の複数インスタンスで構成するには、このオプションを選択します。読取専用サーバーはミラーサーバーのように機能し、プライマリサーバーが実行するすべての動作を同期します。プライマリサーバーの故障時に、リードオンリーサーバーをプライマリサーバーとして構成することができます。（ご使用には別途ライセンスが必要です）



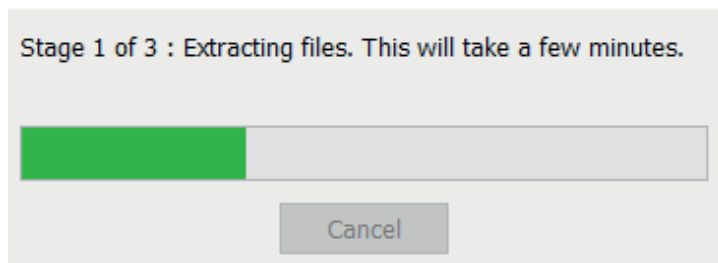
6. 技術サポート用登録ダイアログが表示されます。名前、メールID、電話番号、会社名、および国等、必要事項を入力します。[Next] をクリックしてインストールを続けます。登録を希望しない場合は、[Skip] をクリックします。[Back] をクリックして、前のウィザードに戻ることも可能です。

7. これで、設定をレビューしてインストールを開始するのに必要な [インストール開始] ウィザードが表示されます。 [Back] をクリックして変更を行うか、 [Next] をクリックして、インストールを続けます。

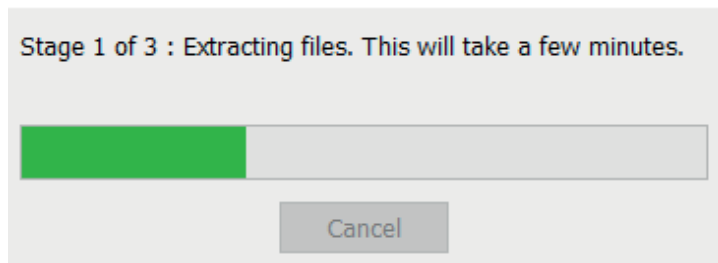


8. インストールが開始され、手順ごとに以下が行われます：

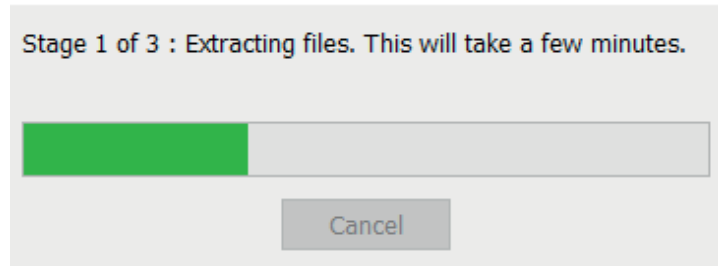
- i. **ファイルの展開**



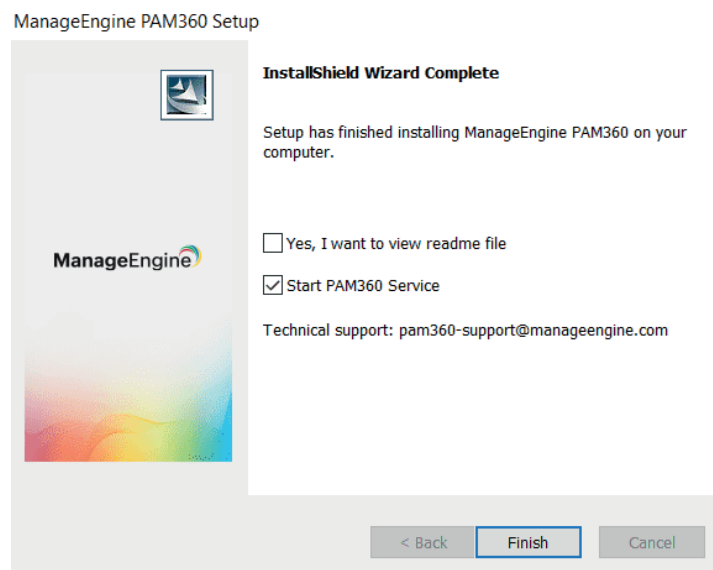
- ii. **JARファイルの開封**



iii. PostgreSQLの初期化

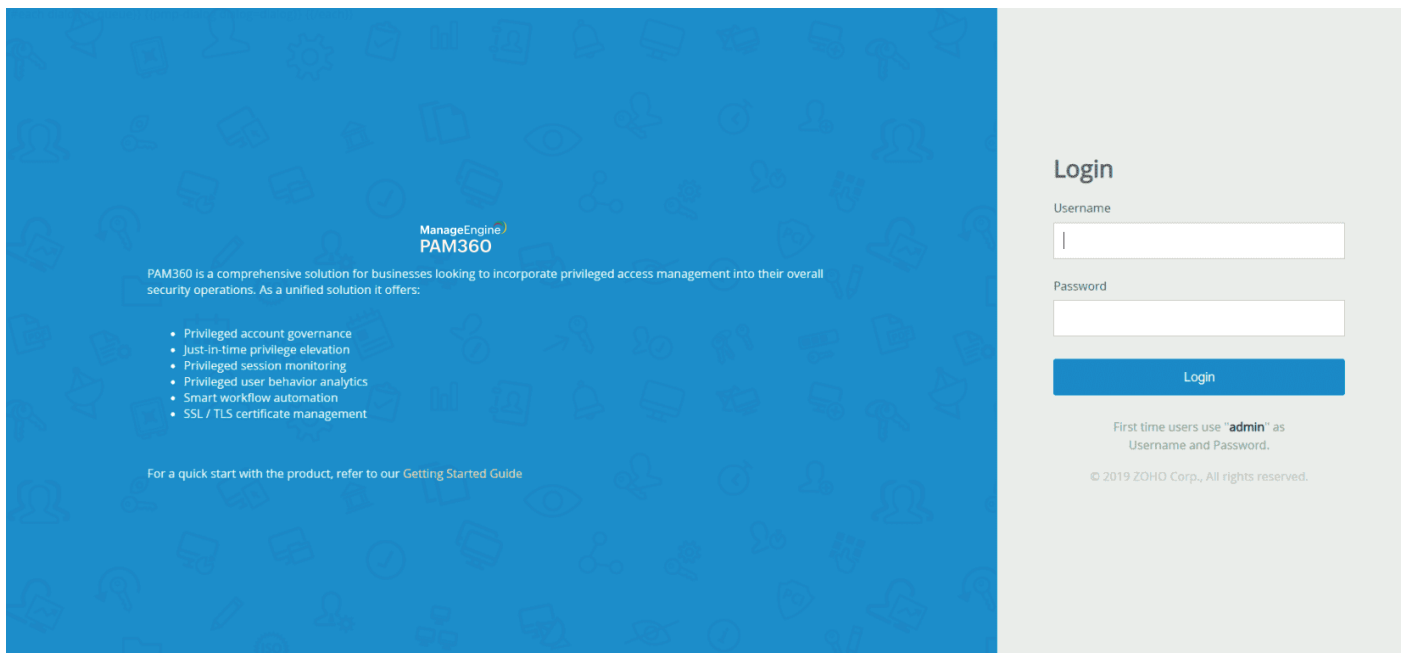


9. ウィザードが表示され、インストールプロセスの完了が表示されます。対応するチェックボックスを選択して、以下のいずれかを選択して実行します：
- [Yes, I want to view readme file.] チェックボックスを選択し、readmeファイルを表示します。
 - [Start PAM360 Service.] チェックボックスを選択し、PAM360 サービスを開始します。
 - readmeファイルを表示しない、および/またはPAM360サービスを開始しない場合は、ボックスのチェックを外します。



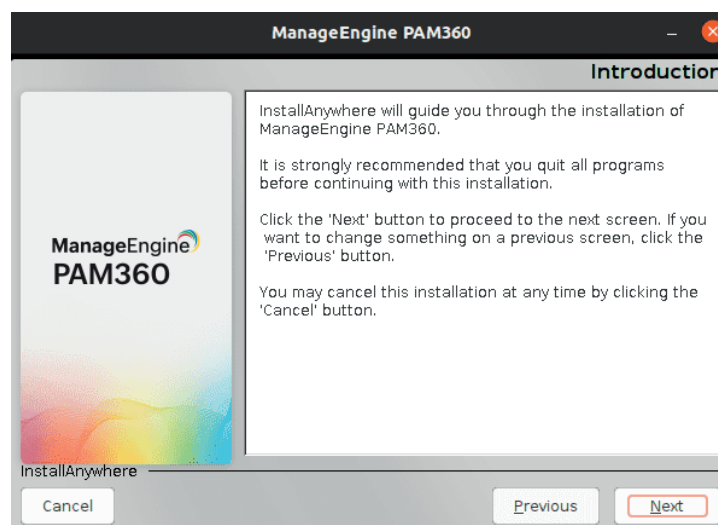
10. [Finish] をクリックします。

以下のように、デフォルトブラウザにPAM360のログインページが表示されます。'admin' をユーザー名とパスワードに入力し、デフォルト管理者アカウントにログインして、PAM360アプリケーションでの作業を続けます。

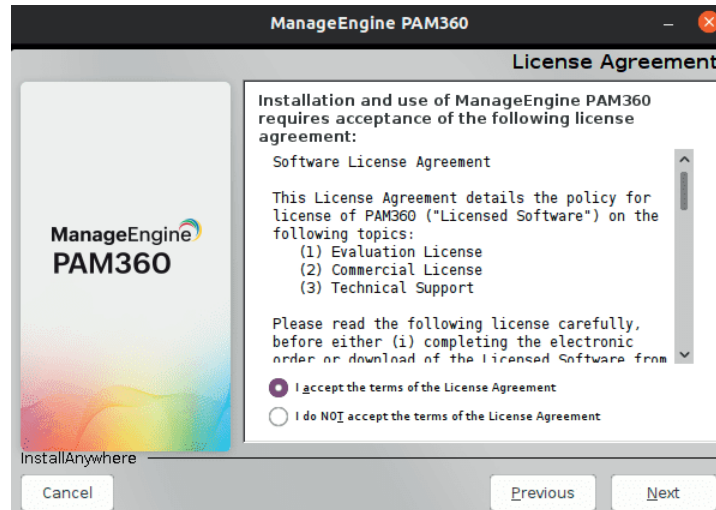


5.3 LinuxにPAM360をインストールする手順（インストールは root 権限以外のユーザーで行ってください。）

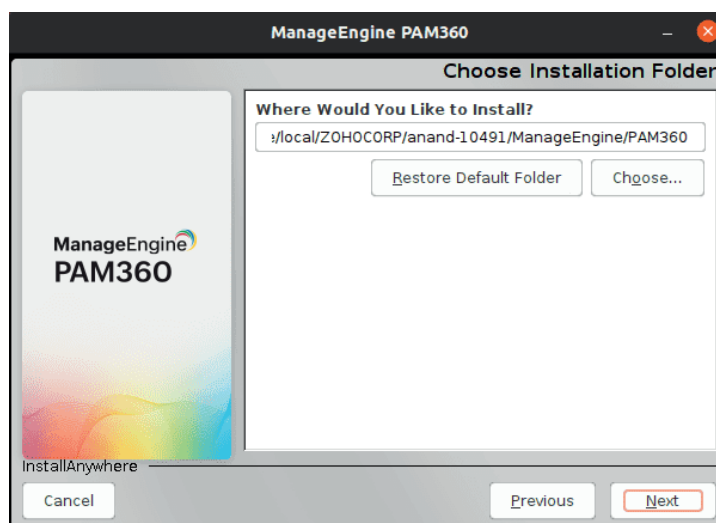
1. Linux用のファイル ManageEngine_PMP.binをダウンロードします。
2. コマンド：a+x <file-name>を実行して、実行権限を割り当てます。
3. 次のコマンドを実行します：./<file_name> または ./<file_name>-i console(ヘッドレスサーバーにインストールする場合)。
4. 画面に導入用のPAM360のInstallAnywhereウィザードが表示されます。[Next] をクリックしてインストールを続行します。



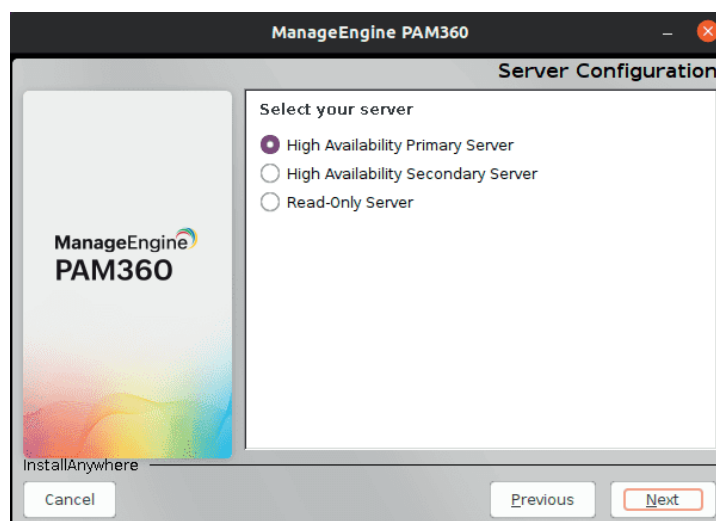
5. PAM360ライセンス契約が表示されます。契約内容をよく読み、 [I accept the terms of the Lisencc Agreement] をクリックし、 [Next] でインストールを続けます。 [Previous] をクリックして、前のウィザードに戻ることも可能です。 [Cancel] をクリックして、インストールセットアップを終了します。



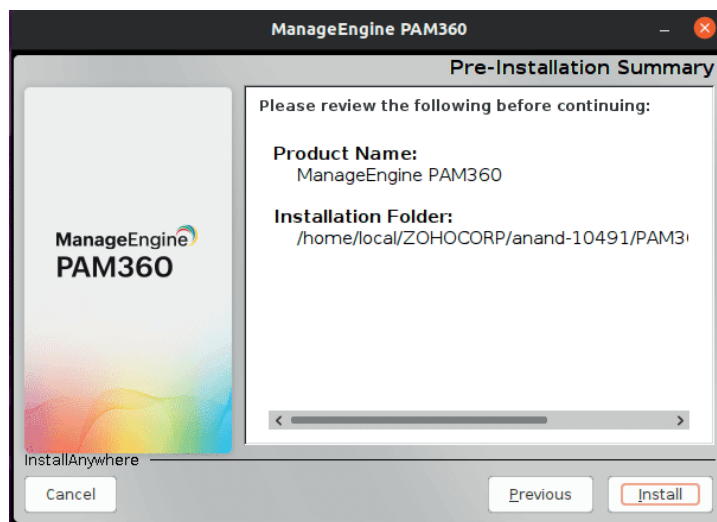
6. フォルダを選択し、お使いのシステムでPAM360をインストールします。デフォルトの場所で続行するか、 [Choose] をクリックして別の場所でPAM360をインストールすることができます。 [Restore Default Folder] をクリックして、所定の別の場所からデフォルトの場所に変更することもできます。 [Next] をクリックしてインストールを続けます。 [Previous] をクリックして、前のウィザードに戻ります。



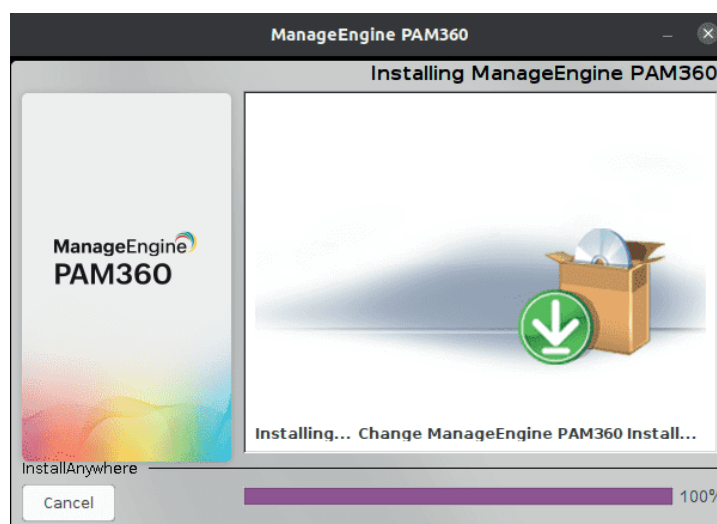
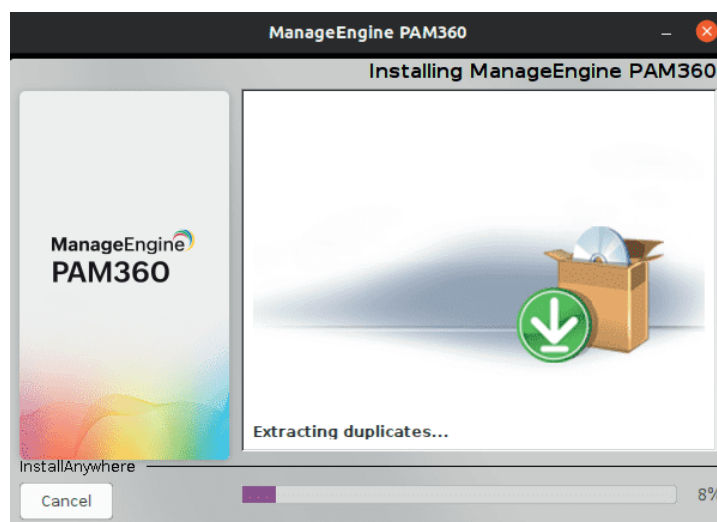
7. サーバー構成パネルが表示されます。ここで、セットアップしているサーバーに関連するオプションを選択します。例えば、リードオンリーサーバーを選択しリードオンリーサーバーを構成します。
- i. 高可用性プライマリサーバー - プライマリサーバーは、PAM360の動作とサービスを制御および管理する主要サーバーです。PAM360提供のすべての特徴と機能をすべてそのままにした状態で、常に完全機能します。
 - ii. 高可用性セカンダリサーバー - PAM360を別のインスタンスでインストールする場合はこのオプションを選択します - セカンダリサーバー。セカンダリサーバーでは、プライマリサーバーがダウンしたごとに、および正常動作に戻るまで、ユーザーが「読取/書込み」アクセスすることができます。この中断期間にデータベースに加えられた変更は、接続が復元されると自動的にプライマリサーバーに同期されます。（別途ライセンスが必要です。）
 - iii. リードオンリーサーバー - PAM360をお使いのシステム環境の複数のインスタンスで構成するには、このオプションを選択します。リードオンリーサーバーはミラーサーバーのように機能し、プライマリサーバーが実行するすべての動作を同期します。プライマリサーバーの故障時に、リードオンリーサーバーをプライマリサーバーとして構成することができます。（別途ライセンスが必要です。）

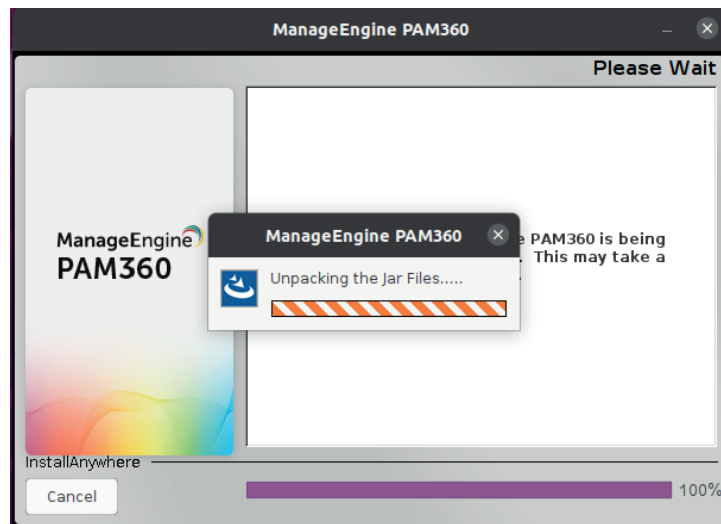


8. 設定をレビューしてインストールを開始するのに必要な [プレインストールサマリ] ウィザードが表示されます。[Previous] をクリックして変更を行うか、[Next] をクリックして、インストールを続けます。

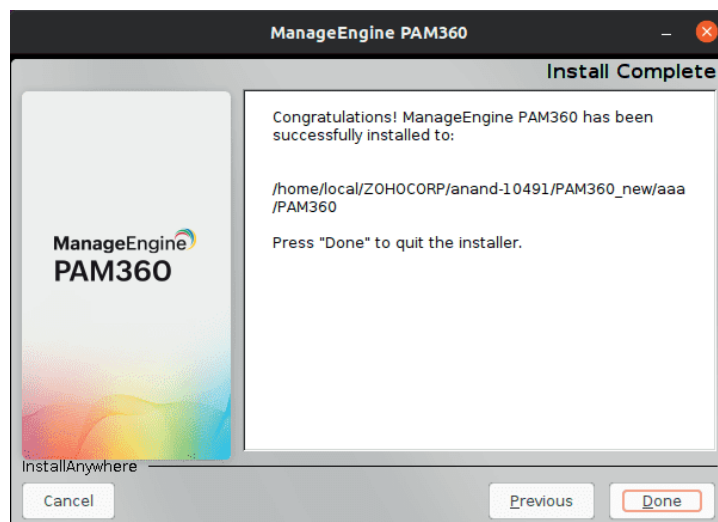


9. これで、InstallAnywhereウィザードが、PAM360インストールプロセスにあわせて開始されます。





10. ウィザードが表示され、インストールプロセスの完了が表示されます。 [Done] をクリックして、インストールを完了します。



5.3.1 スタートアップサービスとしてのPAM360のインストール

1. rootユーザーとしてログインします。
2. コンソールを開き、<PAM360_Home>/bin ディレクトリに移動します。
3. [sh pam360.sh install] を実行します (Ubuntuでは[bash pam360.sh install]として実行します)。

6. サイレントインストール

サイレントインストールは、UI との対話なしでアプリケーションをインストールするプロセスです。このタイプのインストールは、インストール手順が制限されているアプリケーションで、開始前に、名前、電子メール ID、パスなどのパラメータがプリセットされているか、手動で入力されている場合に役立ちます。

以下のコマンドを実行して、アプリケーションを自動インストールします。

6.1 PAM360をWindowsサーバーにサイレントインストールする手順

6.1.1 プライマリサーバー

1. ManageEngine_PAM360_64.bit.exe ファイルをダウンロードします。
2. zip をダウンロードし、インストールファイル WindowsPrimaryNonMSP.iss を展開します。
3. WindowsPrimaryNonMSP.iss ファイルを Notepad で開き、名前、メール ID (必須)、電話番号会社、国 (必須) を編集して保存します。
4. WindowsPrimaryNonMSP.iss ファイルを C:\Windows\ に移動します。
5. 管理者として コマンドプロンプトを開き、ManageEngine_PAM360_64.bit.exe ファイルの場所に移動します。
6. 次のコマンドを実行します：

```
ManageEngine_PAM360_64bit.exe -a -s -f1"C:\Windows\WindowsPrimaryNonMSP.iss" -f2"C:\Windows\WindowsPrimaryNonMSP.log"
```

PAM360 がインストールされ、サービスが自動的に開始されます。

6.1.2 セカンダリサーバー

1. ManageEngine_PAM360_64.bit.exe ファイルをダウンロードします。
2. zip をダウンロードし、インストールファイル WindowsSecondaryNonMSP.iss を展開します。
3. WindowsSecomdaryNonMSP.iss ファイルを Notepad で開き、名前、メール ID (必須)、電話番号、会社、国 (必須) を編集して保存します。
4. WindowsSecondaryNonMSP.iss ファイルを C:\Windows\ に移動します。
5. 管理者として コマンドプロンプトを開き、ManageEngine_PAM360_64.bit.exe ファイルの場所に移動します。

6. 次のコマンドを実行します：

```
ManageEngine_PAM360_64bit.exe -a -s -  
f1"C:\Windows\WindowsSecondaryNonMSP.iss" -  
f2"C:\Windows\WindowsSecondaryNonMSP.log"
```

PAM360がインストールされ、サービスが自動的に開始されます。

6.1.3 リードオンリーサーバー

1. ManageEngine_PAM360_64.bit.exeファイルをダウンロードします。
2. zipをダウンロードし、インストールファイルWindowsRNonMSP.issを展開します。
3. WindowsRNonMSP.issファイルをNotepadで開き、名前、メールID(必須)、電話番号、会社、国(必須)を編集して保存します。
4. WindowsRNonMSP.issファイルを C:\Windows\ に移動します。
5. 管理者としてコマンドプロンプトを開き、ManageEngine_PAM360_64.bit.exeファイルの場所に移動します。
6. 次のコマンドを実行します：

```
ManageEngine_PAM360_64bit.exe -a -s -f1"C:\Windows\WindowsRNonMSP.iss" -  
f2"C:\Windows\WindowsRNonMSP.log"
```

PAM360がインストールされ、サービスが自動的に開始されます。

6.2 PAM360をLinuxサーバーにサイレントインストールする手順

6.2.1 プライマリサーバー

1. Linux用のファイルManageEngine_PAM360_64.bit.binをダウンロードします。
2. zipをダウンロードし、インストールファイルLinuxPrimaryNonMSP.txtを展開します。
3. LinuxPrimaryNonMSP.txtファイルをNotepadで開きます。
4. ユーザーインストールディレクトリのパス (USER_INSTALL_DIR)とファイル上書きの(-fileOverwrite_)パスを指定します。
5. LinuxPrimaryNonMSP.txtを保存し、ホームディレクトリに保存および移動します。
6. コンソールを開き、ManageEngine_PAM360_64bit.binファイルの場所に移動します
7. 次のコマンドを実行します：

```
chmod a+x ManageEngine_PAM360_64bit.bin
```

8. 次のコマンドを実行します：

```
./ManageEngine_PAM360_64bit.bin -i silent -f /home/LinuxPrimaryNonMSP.txt
```

PAM360がインストールされます。

6.2.2 セカンダリサーバー

1. Linux用のファイルManageEngine_PAM360_64bit.binをダウンロードします。
2. zipをダウンロードし、インストールファイルLinuxSecondaryNonMSP.txtを展開します。
3. LinuxSecondaryNonMSP.txtをnotepadで開きます。
4. ユーザーインストールディレクトリのパス (USER_INSTALL_DIR)とファイル上書きの(-fileOverwrite_)パスを指定します。
5. LinuxSecondaryNonMSP.txtをホーム ディレクトリに保存および移動します。
6. コンソールを開き、ManageEngine_PAM360_64bit.binファイルの場所に移動します。
7. 次のコマンドを実行します：

```
chmod a+x ManageEngine_PAM360_64bit.bin
```

8. 次のコマンドを実行します：

```
./ManageEngine_PAM360_64bit.bin -i silent -f /home/LinuxSecondaryNonMSP.txt
```

PAM360がインストールされます。

6.2.3 リードオンリーサーバー

1. Linux用のファイルManageEngine_PAM360_64bit.binをダウンロードします。
2. zipをダウンロードし、インストールファイルLinuxRONonMSP.txtを展開します。
3. LinuxRONonMSP.txtをnotepadで開きます。
4. ユーザーインストールディレクトリのパス (USER_INSTALL_DIR)とファイル上書きの(-fileOverwrite_)パスを指定します。

7. 次のコマンドを実行します：

```
chmod a+x ManageEngine_PAM360_64bit.bin
```

8 .次のコマンドを実行します：

```
./ManageEngine_PAM360_64bit.bin -i silent -f /home/LinuxRONonMSP.txt
```

PAM360がインストールされます。

7. PAM360の起動とシャットダウン

7.1 Windowsの場合

スタートメニューの使用	トレイアイコンの使用
<ol style="list-style-type: none"> 1. [ファイル名を指定して実行]に移動、または、[Win + r]を押します。[実行]ボックスが表示されますので、services.mscと入力し、Enterを押します。 2. サービスコンソールでPAM360 のサービス 'ManageEngine PAM360'を探します 3. サービスコンソールからサービスを開始、停止、または再起動することができます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. PAM360をシステムにインストール完了すると、タスクバーの右端のWindowsトレイ領域にPAM360アイコンが表示されます。 2. トレイアイコンを右クリックして、目的の操作をクリックします： <ul style="list-style-type: none"> • Start PAM360 Service • Stop PAM360 Service • PAM360 Web Console 3. Startup options - 自動開始 [Startup PAM360 Web Console on Service Startup] を推奨します。

7.2 Linuxの場合

サーバーをサービスとして開始および停止

LinuxでPAM360をサービスとして開始するには：

1. 非ルートユーザーとしてログインします。
2. `/etc/rc.d/init.d/pam360-service start`を実行します。
3. PAM360サーバーはサービスとしてバックグラウンドで実行されます。

Linuxでサービスとして開始されたPAM360サーバーを停止するには：

`/etc/rc.d/init.d/pam360-service stop`を(非ルートユーザーとして)実行します。

8. PAM360 Webクライアントの起動

- 新規設定の場合、デフォルトのユーザー名/パスワードはadmin/adminです。初回ログイン後にログインパスワードを変更することを強くお勧めします。
- サーバーを起動するたびに、PAM360 がブラウザで自動的に起動します。

PAM360 Webクライアントに接続するには、次のさまざまな方法があります：

8.1 ブラウザの自動起動

PAM360のインストールが成功し、サーバーが起動すると、PAM360のログイン画面がブラウザ ウィンドウに表示されます。PAM360 は安全な HTTPS 接続を使用するため、セキュリティ証明書を受け入れるように求められます。[はい]を押し、ログイン画面にユーザー名とパスワードを入力して、Enterを押します

8.2 Webクライアントの手動での起動

Windows の場合:

PAM360トレイアイコンを右クリックし、PAM360 Webコンソールをクリックして、Webクライアントを手動で起動します。PAM360ログイン画面がブラウザ ウィンドウに表示されます。PAM360はセキュア HTTPS接続を使用するため、セキュリティ証明書を受け入れるように求められます。[はい]を押し、ログイン画面にユーザー名とパスワードを入力して、Enterを押します。

Linuxの場合：

ブラウザを開き、以下で指定されたURLに接続します：

`https://<hostname>:portnumber/`

ここでは、

<hostname> - PAM360サーバーが実行されているホスト。

<portnumber> - デフォルトポートは8282です。

例： `https://demo-server:8282`

8.3 リモートホストでのWebクライアントの接続

リモートマシン(PAM360が実行されているマシンとは別)の PAM360 Webクライアントに接続する場合は、ブラウザを開いて以下のURLに接続します：

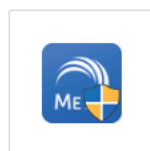
`https://<hostname> : ポート`

PAM360はセキュアHTTPS接続を使用するため、セキュリティ証明書を受け入れるように求められます。
[はい]を押し、ログイン画面にユーザー名とパスワードを入力して、Enterを押します。

9.PAM360のアンインストール

9.1 WindowsでPAM360をアンインストールする手順

1. PAM360をアンインストールするには、ManageEngine_PAM360.exeアイコンをダブルクリックします。

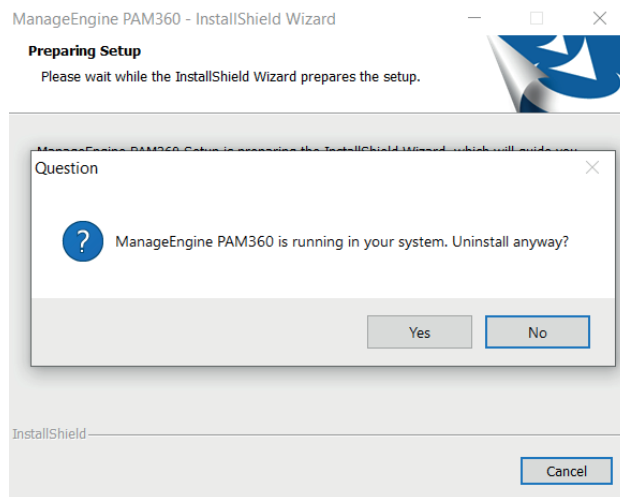


ManageEngine_
PAM360_64bit

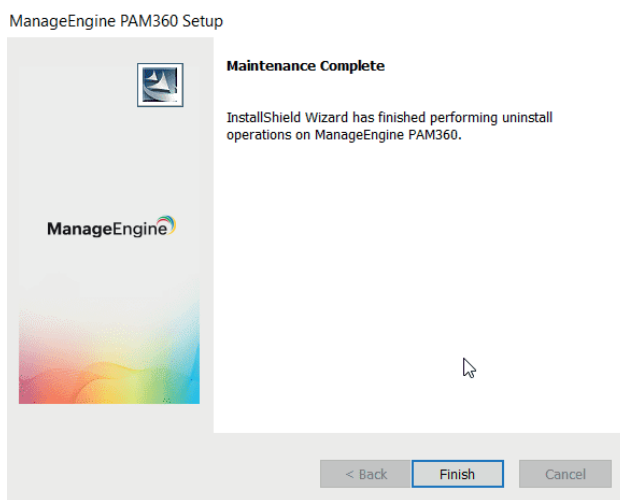
(または)

コントロールパネル\Programs\Programs and Featuresに移動し、 [Manage Engine PAM360] を選択して、トップバーの [アンインストール] をクリックします。

2. 画面にInstallShield Wizard for PAM360が表示されます。 [はい] をクリックしてアンインストールします。



3. 次に、 [終了] をクリックして、アンインストールプロセスを完了します。



PAM360がお使いのマシンから正常にアンインストールされました。

9.2 LinuxでPAM360をアンインストールする手順

1. LinuxでPAM360をアンインストールするには、ルートユーザーとしてログインし、<PAM360_Home>/binに移動します。
2. 次のコマンドを実行します：

```
sh pam360.sh remove (In Ubuntu, execute as “sh/bash pam360.sh remove”)
```

PAM360がお使いのマシンから正常にアンインストールされました。

10. インストール後のベストプラクティス

10.1 管理者ログインパスワードの変更

デフォルトでは、PAM360アカウントのユーザー名とパスワードは'admin'になります。PAM360 インストール後の初回ログイン時に、PAM360 ログインパスワードを変更することを強くお勧めします。これを行うには、[管理] >> [セットアップ] >> [パスワード変更] の順に移動し、以下の手順を実行します：

1. 現在のパスワードを入力します。
2. 新しいパスワードを入力します。また、組み込みパスワードジェネレーターを使って、適切なパスワードを生成することもできます。
3. 新しいパスワードを再入力し、パスワードを確認します。
4. スマートカード/PKI/証明書認証にユーザー証明書を参照して選択します。
5. [保存] をクリックして、古いパスワードを変更します。

メモ:

- 新しいパスワードはメールで送信されませんので、新しいパスワードをご自身で記憶しておく必要があります。
- メールサーバー設定を構成し、パスワードを忘れた場合、PAM360のログインページにある「Forgot Password?」リンクで、パスワードをリセットします。
- メールサーバー未設定の状態新しいパスワードを忘れた場合は、サポートに連絡し対応方法を確認してください。

10.2 PAM360暗号化鍵の管理

PAM360は、AES-256暗号化を使用して、パスワードとその他機密情報をデータベースで保護します。暗号化に使用される鍵は自動生成され、すべてのインストールで一貫です。デフォルトでは、この暗号化鍵は<PAM360 installation directory>/confフォルダ下のpam360_key.keyという名前のファイルに保存されます。本番環境インスタンスの場合、PAM360では暗号化鍵をインストールフォルダ内に保存できません。これは、ライブデータベースとバックアップデータベースの両方で、暗号化鍵と暗号化されたデータが共存しないようにするために行われます。

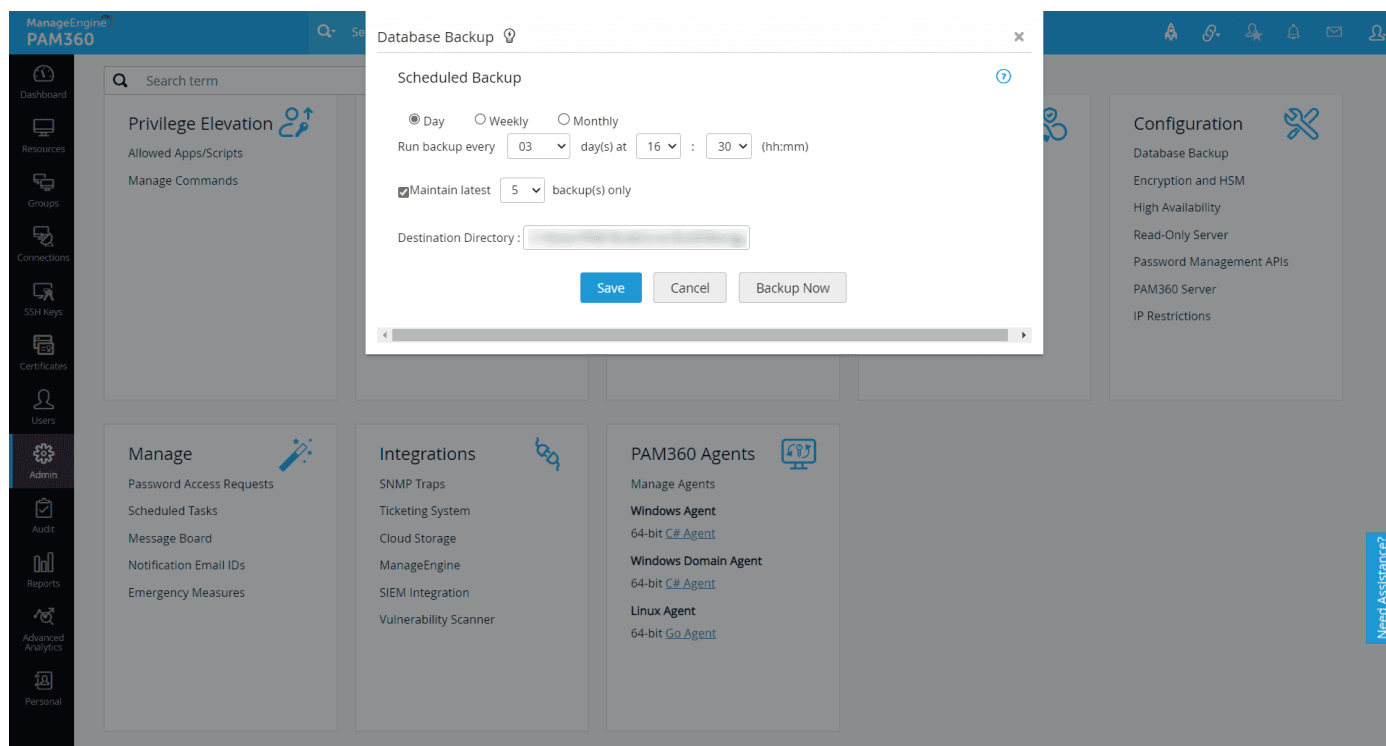
PAM360は、pam360_key.keyの場所を、<PAM360 installation directory>/confフォルダの下にあるmanage_key.confという名前の設定ファイルに保存します。この暗号化鍵を、PAM360がインストールされているマシンの外、別のマシンまたは外部ドライブに移動して保存することを強くお勧めします。暗号化鍵を移動したら、manage_key.confファイルを新しいキーディレクトリパスで更新します。パスは、マッピングされたネットワークドライブまたは外部USB（ハードドライブ/サムドライブ）デバイスにすることができます。

PAM360には、起動するごとに、pam360_key.keyファイルを読み取るため<PAM360 installation directory>PAM360\confパスが必要な権限でアクセスできる必要があります。正常に起動すると、ファイルにアクセスする必要がなくなり、ファイルを含むデバイスをオフラインにすることができます。

10.3 データベースバックアップの構成

デフォルトのバンドルデータベースをバックエンドデータベースとして使用する場合は、データベースのバックアップ機能を設定することをお勧めします。データベースのバックアップスケジュールを設定するには、次の手順を実行します：

1. [管理] >> [設定] >> [データベースバックアップ]の順に移動します。
2. バックアップフィールドデータを要件と必要にあわせて選択し、[保存] をクリックします。



ManageEngine 

